

令和4年度 学力スタンダード指導計画・報告書

教科:(地理歴史)科目:(地理A) 対象:(第3学年 A組 ~ F組)

教科・科目の指導目標	激変する国際社会を理解し生活するうえで、地理は必要不可欠な教科目である。苦手意識を払拭し、学ぶ楽しさを構築しつつ、「地理学とは何か」を中心に学習する。
------------	---

	高校入試等の分析結果・前年度の学力調査分析結果	分析結果を踏まえて検討した指導内容	指導体制の確立
年度当初	<ul style="list-style-type: none"> ・本校が入試に「社会」を導入した数年前から、「全体的な興味・関心・意欲の低さ」「一部に強烈に興味・関心が高く意欲的な生徒がいる」といわれていたのが昨年度までである。 ・今年度入試においても社会科に苦手意識をもつ生徒たちが多くにかわりない。概念や考え方が定着していないためである。よって記述の点数は低く、全体の平均点も停滞している。 ・一方で、検定勉強等では多くの生徒が能力を伸ばしている。生徒たちの中に学ぶための素養はあると考えられ、積極的な取り組みをしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「覚える」ことから入ると、何のために学ぶのか、生徒が見失いがちである。諸課題や現在の世界情勢について「なぜ」そうなるのかを地理的に考察することから進めていく。結果的に地理的な基礎知識・技能が定着するような授業をめざしていく。 ・現代世界の諸課題について、自身の考えを持たせられるよう、自然地理、人文地理、地誌の観点から考察し、妥当かどうかを判断することができるよう指導する。 ・自身が導き出した仮説、考察、結論を他者にアピールすることができるようにする。発表技術や自論の裏付けをとる指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の理解度を発問やレポート等を通じて確認し、授業を行っていくことができるよう、授業規律を徹底する。 ・身近な話題を提示し諸課題について地理的な考察をすることができる授業を展開するために、ニュースや新聞記事等を活用する。 ・地理分野にとらわれず、身近な話題や社会的課題をレポートできるよう、ネット環境や図書館との連携を整えていく。

	生徒の変容	生徒の学力の定着状況	次年度に向けた指導体制の改善
年度末			